

国語－ 7（第 2 学年） 社会生活に必要な手紙を書く事例（書くこと）

【学習活動の概要】

1 単元名 心に届けたい言葉を添えて年賀状を書く～心情が伝わるように工夫して書く～

2 単元の目標

送る相手に応じて、心に届けたい言葉を考え、その言葉にふさわしい筆記具を選んで年賀状を書くことができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

年賀状に興味をもち、送る相手のことを考えて年賀状を完成させようとしている。

【書く能力】

送る相手に対する自分の気持ちが伝わるように、説明や具体例を加えるなどの工夫をして文面を書いている。

【言語についての知識・理解・技能】

書く言葉の意味を考えて、楷書又は行書を選んで書いている。

4 題材

年賀状

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全 2 時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第 1 時 (本時)	学習の見通しをもち、送る相手に応じて、「挨拶の言葉」と「心に届けたい言葉」を考え、それらの言葉にふさわしい書体（楷書又は行書）を選んで年賀状の下書きを書く。	○年賀状を書くという具体的な活動を通して、新年の挨拶をする目的と相手を明確にする。 ○相手の心に届く言葉を書くために、説明や具体例を加える工夫をさせる。
第 2 時	年賀状を清書する。 ① 年賀状を清書する。 ② 清書した年賀状を活用して交流する。 ③ 学習活動を振り返る。 ※ 投函する。	○書写の学習を生かして、言葉の意味を考えて書体を選ぶ。

(2) 本時の学習（1/2 時間）

- ① 送る相手の心に届けたい言葉を添えて、年賀状を書くことを理解する。
 - ・単元の見通しをもち、言語活動に対する関心・意欲を喚起する。
- ② 送る相手に応じて、「挨拶の言葉」を選ぶ。
 - ・使ったことのある「(新年の) 挨拶の言葉」を挙げさせる。
 - ・他の言葉の例を示す。
 - ・相手に応じた「挨拶の言葉」を選び、その言葉を選んだ理由を述べさせる。
- ③ 「心に届けたい言葉」を考える。
 - ・定型的な言葉だけでなく、相手に応じた言葉を添えるようにさせる。
 - ・心情を説明したり、伝えたいこと具体例を書くように工夫させる。
- ④ 送る相手と届ける言葉の意味を考え、楷書又は行書を選んで年賀状の下書きを書く。
 - ・書写の学習を生かし、意図を明らかにして書体を選ぶようにさせる。
- ⑤ 下書きを互いに読み合い、交流する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本事例では、中学校学習指導要領・国語の第2学年「書くこと」の指導事項「ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」を指導する。文章を書く際に説明や具体例を加えると、考えや意見の根拠が明確になり説得力が増す。また、描写を工夫すると、心の動きや身の回りの様々な物事、印象に残る経験等をイメージ豊かに表すことができる。このような表現の工夫を意図的に行えるように指導する。

さらに、関連する内容として、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「(2)イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。」を位置付ける。書写については、小学校及び中学校第1学年において楷書を指導している。これに加え、中学校第1学年で漢字の行書の基礎的な書き方を学習し、第2学年で漢字の行書に調和した仮名の書き方を指導している。楷書と行書のイメージは固定的なものではないが、相手や目的に応じて書体を選んで書くことがあるということを指導する。

【言語活動の充実の工夫】

上述の内容を効果的に指導するために、言語活動を設定する。第2学年「書くこと」の言語活動例は、次の3つであり、本事例では、ウの言語活動例を具体化した。

- ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。
- イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。
- ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。

年賀状は、中学生にとって身近な手紙の形式の一つである。日頃はあまり手紙を出さない相手であっても、年の初めという機会をとらえて互いの思いや近況を伝え合うことができる。また、その形式が、一般的に「挨拶の言葉」とそれに添える文面という簡潔なものであり、比較的短い時間で書けることも特徴である。

本単元では、このような年賀状の特徴を生かし、学習過程において次のようなことを思考・判断しながら表現させるようにした。

- ①「(新年の)挨拶の言葉」には様々なものがあるが、相手にふさわしい言葉はどれかを考えて選ぶ。

例：祖父に丁寧な気持ちで「あけましておめでとうございます」。友達に親しみを込めて「Happy New Year!」

- ②相手の心に届くような文面を書く。そのために、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりする。

例：(友達へ) 今年もよろしく。→今年も野球で県大会出場を目指して一緒にがんばろう。

(祖母へ) 元気でね。→年末、風邪気味だと聞きましたが、大事にしてくださいね。

(先生へ) がんばっています。→先生に勧められた本を、冬休みに読もうと思います。

- ③言葉の内容と文字の効果を考えて、書体を選んで書く。

例：いとこの小学生が読みやすいように楷書で書く。

やわらかい感じにしたいので行書で書く。

ワークシートの例